

夢広がる海洋エネルギーについて学ぶ 海洋温度差発電町民講座

海洋温度差発電の町民講座（主催・久米島町、伊万里市、佐賀大学）が7月18日、沖縄県海洋深層水研究所で開催されました。講座には商工会や観光協会など約25名が参加。

佐賀大学海洋エネルギー研究センター池上康之教授が「久米島町と伊万里市が育ててくれた海洋温度差発電への挑戦」と題した講話や伊万里市職員による伊万里市のふるさと納税返礼品に久米島町の特産品が活用されている取組状況の紹介が行われました。



電気をおこしてみよう！ エネルギー教室

沖縄・ハワイクリーンエネルギー協力推進事業の一環で、7月11日に大岳小学校の5・6年生を対象にエネルギー教室が開催されました。

琉球大学の清水洋一教授による、発電のしくみや地球温暖化の原因、家庭で使用する電化製品の電力使用量などについてクイズ形式で学びました。また、ペットボトル風車を製作し、発電競争をしたり、自転車発電で電球にエネルギーを送り、白熱灯とLEDでのエネルギー量の違いを体感しました。



ものづくりって楽しいな 夏休みものづくり体験

7月28日に具志川改善センターで夏休みものづくり教室が行われました。

今回は「フォトフレーム」「ビーズ」「モビール」「ホバークラフト」「小物づくり」の5つの教室を開催。参加した子どもたちは、それぞれの教室で作品づくりに夢中になり、楽しみながら過ごしていました。多彩な創造力で同じ材料を使っても、それぞれの個性が出る素晴らしい作品に仕上がりました。

南国沖縄の文化を体験！ 佐賀交流

佐賀市の中学生16人が「第7回佐賀市・久米島町中学生交流会～夏の交流～」として、8月3日から3日間久米島町へ来島しました。島内観光、久米島紬コースター作りなどを体験したほか、久米島まつりを楽しみました。また、佐賀市と深い関わりのある海洋深層水研究所の温度差発電を見学。交流生らは「交流生全員ともっと話せるようになりたい」「早く佐賀にいきたい」といった感想もあり、有意義な交流となりました。



離島の中学生が種子島で熱戦 「久米島イーグルス」離島甲子園に出場

第11回全国離島中学生野球大会（離島甲子園）が8月7日～10日まで鹿児島県種子島で開催されました。本町選抜チームの「久米島イーグルス」は善戦しましたが、惜しくも初戦敗退。しかし、町内中学3年生で結成されたメンバーたちは、自分達の目標に向かって成長していく貴重な経験を積むことができました。町民の皆様の温かいご声援ありがとうございました。

成績 久米島イーグルス 1-2 新上五島ファイブスターズ



プロレスが久米島にやってきた イーブ夏まつり2018

7月28日、イーブ公共駐車場でイーブ夏まつりが行われました。毎年、趣向を凝らしたプログラムで、町民・観光客からも人気のある地域イベントに、今年は「琉球ドラゴンプロレスリング」をゲストに迎えました。ほかにもフラやエイサーの演舞、民謡やバンド演奏など午後5時から9時まで多彩なプログラムが披露され、子どもからお年寄りまで楽しい時間を過ごしました。レディースアームレスリングは、リング上での戦いに例年以上の盛り上がりを見せました。



夢に一步でも近づくため！ 中学生が職場体験

久米島西（7/10～12）、球美（7/24～26）中学校の生徒76名が、町内23の事業所にて職場体験を行いました。自分自身の希望で職種や業種を選択し、実際に体験をすることで、将来の就業意識の芽生えや職業観の発達のきっかけとします。それぞれの職業に就くために必要な知識や学びを理解し、主体的な学校生活に繋げる機会になりました。職場体験を終え、「働くことが楽しくなった」「早く仕事をしたい」などの感想を述べていました。



危機発生時等の支援活動に関する 協定書を締結

久米島町と久米島商工会は、有事の際に双方が協力して物資の調達支援協力にあたることを定めた「危機発生時等の支援活動に関する協定書」を7月25日に締結しました。久米島商工会の嘉手苺一会長は「大規模災害時に、燃料や飲料水等について、被災者や災害対策に優先して提供したい」と話しました。大田町長は「行政単独での物資の備蓄には限界があり、久米島商工会からの連携の申し出はありがたい」と感謝しました。